

## 単身赴任の夫へ

青鹿芳江  
埼玉県・四六・主婦

◎◎◎優秀賞

亭主元気で留守がいい、と思っていました。どんなに夜遅くなくても家で御飯を食べるあなたの食事のしたくから解放されると、小さくバンザイをしました。たまの同窓会に出席しても、「遅くとも一〇時までには帰ってこい」とまるで高校生の門限にうんざりしていた私は、友人に片っぱしから電話をしました。なのに。

単身赴任の引越しはあつけないほど短時間で終わりました。六畳の

和室に積みあげた荷物がなくなってガラんとした部屋に、あなたがチラシの裏に書いた荷物のリストだけが残りしました。なんだかマイツた。

新婚じゃあるまいし、「一緒にいないと寂しい」なんて甘い感情はとっくにないけれど、今まで引越しはいつも一緒にしたよね。物をどんなに捨てる私と捨てられないあなたは、引越しのたびにケンカになりましたね。気の滅入るような冷たい雨の降る津軽海峡を渡って札幌に転勤したときも家族一緒でした。娘の学校のこと、両親のこと、もろもろの事情があつて今回は止むなく単身赴任。

この夏、娘と赴任先のマンションを訪れました。予想以上に片づいていました。テレビの上には、饞別にもらった「女子社員一同からの花カゴ」も飾ってありました。台所など留守宅のわが家よりずっときれいでした。

「あとでやろうと思うとたちまち溜まるからな。立つたまま食ったりす

る」

確かに食後のあのだらったとした気分て一人じゃわびしいだけなのかもね。インスタントラーメンが散乱する男やもめもかなしいけど、妙に片づいている部屋はもったかなしい。

会社で嫌なことがあると、肩間にシワを寄せたまま固まって帰宅するあなた。お酒の飲めないあなた。娘と私の愚にもつかないオシヤベリに、「おマエら、うるさい」とあきれながらもすこしずつ解凍していくあなた。

ほんとうにひとりで大じょうぶ？

\*今回、夫は初めての単身赴任です。